

3月の果実の見通し

区分 品目	入荷量(t)			単価(円/kg)			山形県産前年実績		コメント
	前年実績	前年比 見込 (%)	5か年 平均	前年実績	前年比 見込 (%)	5か年 平均	前年 入荷量 (t)	前年 占有率 (%)	
みかん類	1,157	上回る	2,936	414	88	301	0	0	全般的に寒さが厳しい冬になったこともみかんの需要にはプラスに動き、2月は静岡産「青島」「寿太郎」を中心に価格は徐々に上げながら推移した。平年より大幅に高かった前年には及ばなかったが、改めて「青島」等の高糖系品種の持つ能力の高さを再確認する年となった。3月に入れば静岡産の特選品や徳島・香川産が入荷し、価格は前年比安を見込むが、これでも平年よりは大幅に高い。
りんご類	6,909	前年並み (ふじ)	6,407	328	92	306	11	0	3月以降はスーパー等の店頭でも特に品質や価格に神経を使いながらの販売になる。一個200円前後で販売するにはお客様を落胆させない内容が求められよう。小玉の比率が高いということであれば場合によって価格は前年比マイナスの可能性もある。今年の貯蔵りんごについて味は問題なく、現状の状況を維持できれば、価格は前年並かやや高いと予想される。
いちご類	5,340	前年並み	5,395	1,238	95	1,092	0	0	2月になって各産地2番果の出荷が本格化してきた。これまでの品薄感は払拭され、中旬にかけて販売苦戦する場面も多く価格は下げ基調で推移した。各品種ともに1番果の出荷が振るわなかったこともあり、草勢が良く九州産の「あまおう」では2番果の出荷ピークが長期に渡って続き、産地での予想も大きく上回る出荷量であった。今後3月上旬にかけて3番果が連続して出荷される見込みであり、一時的に数量が減ることもあるが、中旬には3番果の出荷ピークとなって再び潤沢な出回りが期待される。
すいか類	386	やや上回る	386	408	95	376	0	0	すでに一部産地からの入荷はあったが、3月より各産地からの出荷が始まって29年産のスタートとなる。熊本産の大玉すいかは生育期間中の好天で交配・着果ともに良好で若干早めのペース。日照量も十分にあったことで玉肥大は良く、出始めとしては例年よりも大玉が多いと見込まれる。関東産の小玉すいかも生育順調に推移しており、順次出荷開始となるが、本格的に増えてくるのは4月になってから。
キウイ	740	下回る	902	548	100	442	0	0	5月の連休絡みでスタートするNZ産と国産に出荷の谷間ができると予想され、価格は前年並かやや高めな推移を予想している。2月～3月の出荷に際して、各産地とも端境の時期に極端に少なからないように配慮して出荷すると思われる。